

JA自己改革推進レポート（JA鳥取中央）3月号

1. 琴浦町「安田ふれあい食堂」に農畜産物引換券を贈呈！

JA自己改革「地域貢献活動」の一環として、管内の子ども食堂へ定期的に旬の特産物や、農畜産物引換券を贈呈している。2月7日、琴浦町の安田地区振興協議会が運営する「安田ふれあい食堂」の野間田節雄会長に農畜産物引換券を手渡した。令和元年度は、7つの子ども食堂へメロン・西瓜等の旬の食材の引換券を贈呈。

JA女性会からもお米 398kg や雑巾 2,688枚などを寄付した。また、北栄町の「ほくほく食堂」には、Aコープ店舗から精肉を年3回提供した。



2. 県下営農指導事業成果発表会に出場！

2月21日、JAグループ鳥取県下営農指導事業成果発表会が開催され、JA鳥取中央から営農指導員2名が出場した。この大会は、営農指導事業の機能・体制を構築させるため指導員のレベルアップと機能強化を図り、農家所得の向上につながることを目的としている。

北栄営農センターの前田指導員は、花卉「ストック」の栽培でLED電照を導入し開花調節、草丈伸長を促し、単価の取れる時期の出荷率を上げることで農家の所得向上につなげたことを発表。

琴浦営農センターの後藤指導員は、新たな排水対策指導会の実施等により、生産者の意欲を掻き立て、ブロッコリー栽培面積の維持・拡大を図ったことを発表した。後藤指導員は最優秀賞を受賞し、鳥取県代表として8月に開催される中国地区JA営農指導員交流集会で発表する。



3. 女性会「会員スタンプ制度」を新たに導入！

JA鳥取中央女性会では、JA事業を知ってもらうきっかけ作りとして新たに「会員スタンプカード」を発行し、女性会会員の拡大と推進に取り組む。新会員の勧誘、共同購入品の購入や各支部の活動への参加等で1ポイントずつ進呈し、10ポイントたまった場合に共同購入品と交換できる仕組み。この取り組みにより、女性会をはじめとする組合員や地域住民の参加により地域に寄り添った活動を展開していく。



4. 学校給食用牛乳を飲んで消費確保につなげる！

新型コロナウイルス感染拡大防止による学校臨時休校の影響で納入できなくなった給食用の牛乳を3月16日から内部会議に提供するなど、牛乳の消費確保の取り組みを始めた。県内の学校給食用牛乳は、全て大山乳業農業協同組合が供給しており、出荷停止となった飲料用が加工原料用に代わることで、酪農家の所得減少にまで懸念が及ぶ。大山乳業農業協同組合とは、第1次産業団体間でスクラム協定を結んでおり、連携強化を図っている。



栗原組合長は「JAグループの一員として相互扶助の精神で助け合うことが大事。小さな力かもしれないが、消費拡大の一助となるよう応援する」と述べた。JA鳥取中央は、当面の間継続し内部会議時に提供していたお茶を牛乳に切り替える。